

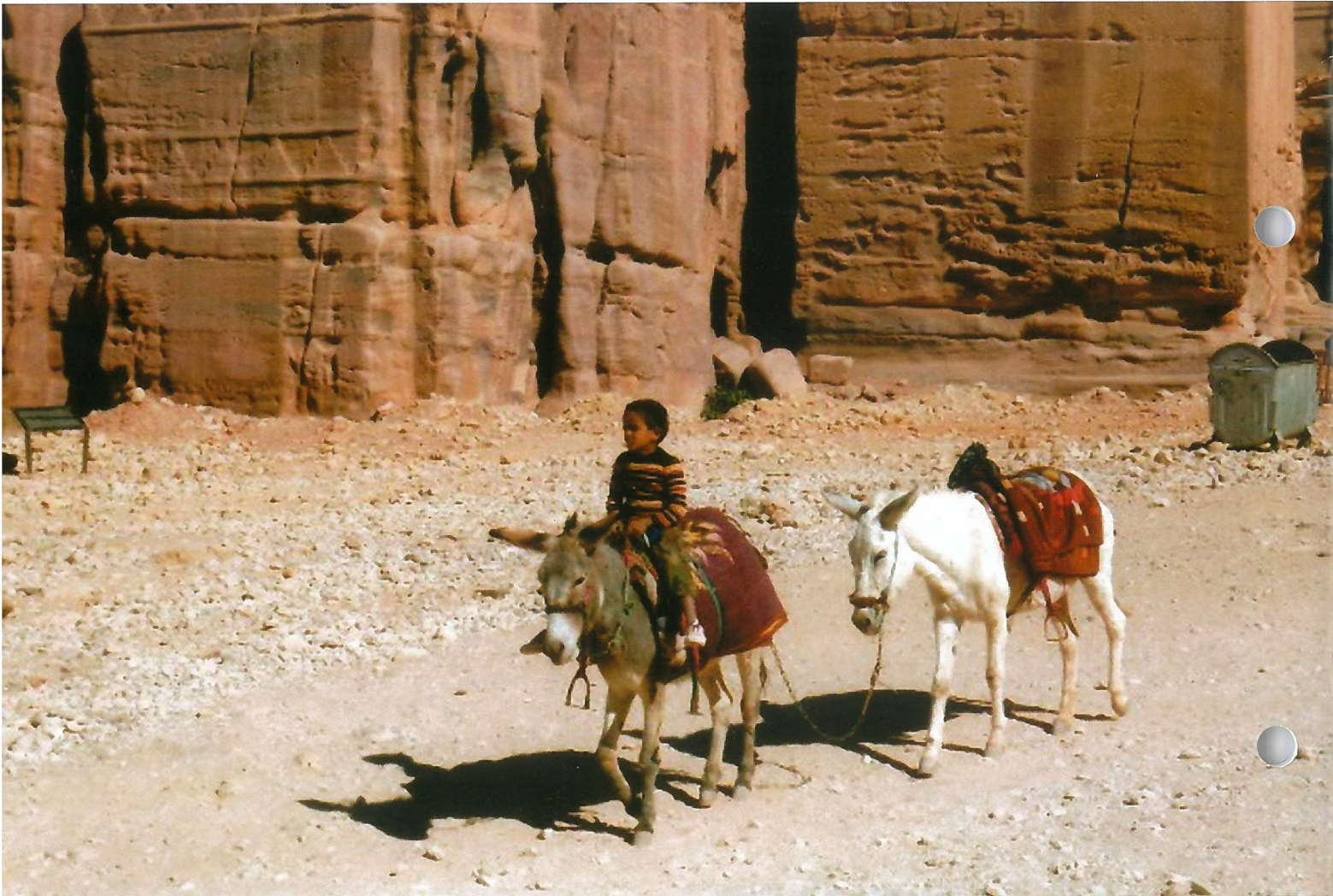
木材産業界のコミュニケーション

2024年2月10日発行(毎月1回10日発行)
通巻491号 ISSN 0916-8176

ウッドミック

WOOD INDUSTRY & WOODWORKING MACHINERY INFORMATION CENTER

WOODMIC



創刊40周年

<https://www.woodmic.com/>

●Eagleプレカットの大森木材(株)を見る
再生木材事業でウッドショックを乗り切り更に羽ばたいていく

●続・2024年 木材業界の年頭所感

- ハニカム構造のLVL「ハニカムダンネージ」と「ハニカムブロック」
- カーボンニュートラル社会へ向けて CLT の土木利用を自社工場で実践 / 株鈴工
- 第25回国際木材加工セミナー IWMS-25 で木材加工技術の研究開発のトレンドを追う
- インドネシア通信 No.202「私見 デモクラシー祭り」の巻 / 神谷典明

●森人回想録(24)「風穴」 / 千巻

●キシレクスポ 2024 & イタリア木造建築視察ツアー参加者募集



▲今やエコプロの象徴、ナノセルロースヴィークル

第25回エコプロ2023（主催Ⅱ（一社）サステナブル経営推進機構、日本経済新聞社）は、昨秋12月6日～8日の3日間、東京ビッグサイト東4～6ホールで開催された。同時開催展覧

第25回エコプロ2023

やすさと分かりやすさで展開された。昨今のペットブームに乗ったペットインテリアは過去最大の出展者数となり、大建工業、フランスベッドなどの大手メーカーによるベッド用家具出展も見られた。

また、アブラヤシの幹廃材から作られた再生木質ボード「PALM LOOP」を使用した各種家具製品が出品された。PALM LOOPは、バナソニック

クハウジングソリューションズにより開発された新素材MDFで、従来のMDFと置き換えて使用できるだけでなく、「環境貢献やSDGsへの取り組みに向けた訴求効果に繋がる」と、好評価を得られているそう。今回は賛同するメーカー5社によるベッド、デスク、テーブルなどが出品された。

SDGs Week EXPO 2023 全体で442社・団体966小間の出展となり、3日間で6万6826名が来場。昨年と規模は同等ながら約5000名の集客増となった。

環境省エリアでは、エコプロの云わば象徴ともなったNCV（ナノセルロースヴィークル）が変わらず鎮座し、ナノセル



▲セルロースナノファイバーの実用化は更に進んでいる

方では定着した感が伺えた。木材関連分野の出展は主に、企画エリア「森と木で拓くSDGsゾーン」森と木のある暮らしの提案」で展開され、ウッドデザイン賞2023（一社）日本ウッドデザイン協会）受賞作品展示に上位賞の授賞式が会期中に催された。同エリアへの

ロースファイバーの技術ならびに進む製品化の軌跡が披露された。会場全体ではあらゆるモノのリサイクル、再生製品が一堂に会し、「とにかく無駄なく使っていこう」とする傾向は益々顕著な様相である。環境学習の場としての学校単位での子ども達の社会見学もすっかり定着し、且つ「エコプロオンライン」との並走も奏功してか、アフターコロナにおけるエコプロの在り



▲あらゆるバイオマスを製品化。資源を無駄なく使う観点から組手什の棚も会場内各所で健在！

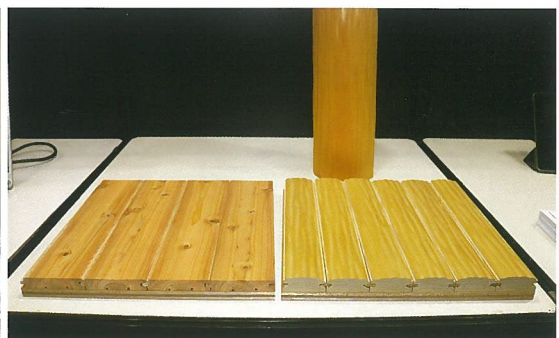
【ウッドデザイン賞 2023 受賞製品】（抜粋）



▲三角山パズル（MaDA_Lab）



▲サーサイゲーム（熊野林星会）



▲北山杉を床材に新提案したごはんや一芯 京都店（株式会社ムーンバランス）



▲農林水産大臣賞「森 tebaco」



▲サウナ後のととのいボード「CHILL DIVE」（株式会社アーティストリー）



▲MI デッキ（MEC Industry 株式会社）

Japan Home & Building Show 2023

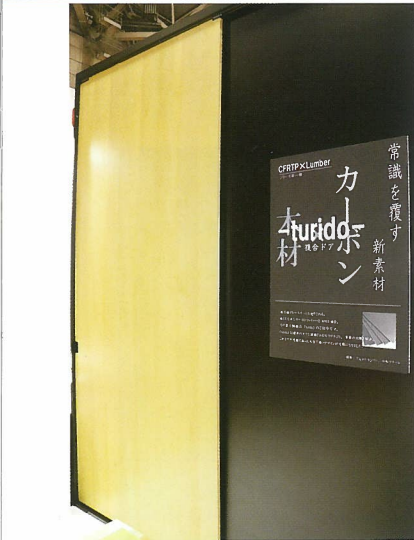
建築・建材の総合8展で構成された「Japan Home & Building Show 2023」(一社)日本能率協会主催)は、昨秋11月15日〜17日の3日間、東京ビッグサイト東ホールで開催された。45回目を迎えた同展は、今回「ともに、進もう!」をテーマに、国内外の最新建材各種が集結した。同時開催のアジア・フアニシング・フェアを含めた来場者は1万7428名となり、前回2022年展より5000名近く集客を伸ばして勢いを見せた。



▲秋田県産材によるダボ接合 DLT



▲構造用 PB「壁武者」を紹介 (東京ボード工業)



▲チリ産レンガ材(上)やカーボンファイバーを使用した新作吊り戸「turido」(下)を発表(フルタニランバー)



▲パレルサウナは全国的なブームとなっている



▲PALM LOOP 使用の家具製品各種



▲吸音効果だけでなく匂いを吸着、消臭する天井材「クリアトーン」はベッドなどの気になる匂いを抑える(大建工業)



▲ねこシェルフ (大建工業)

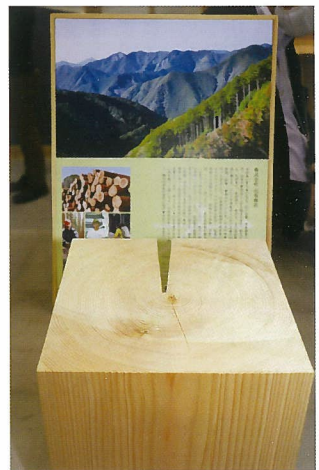
会期中随時実施された各講演会では、基調講演に建築家の安藤忠雄氏と坂茂氏を迎え、共に満員御礼となった両氏の実際に手掛けてきた事例と共に話題が展開された。

また、今年7回目を迎えた「みらいのたね賞」(建築家が認めた優れた建築を生み出すことに貢献する優れた建材・製品)には、木材産業関連からは、流通材を「井」型の特殊金物で組み合わせセラメン木構造を可能にする「囲柱ラメン構造」(有ライン工業)、飛騨産業の木製家具と組み合わせたコンパクトキッチン「HIROMA」(クリナップ(株))、狭小部に簡単施工で高耐力を可能にする「2段階筋かい新・つくば耐力壁」(株式会社ナカ)、引張材にボルトを使用することで長尺材を減らし合理化・標準化したトラス構造の「ボルトラス」(ポラテック(株))が受賞した。

ゲスト選考委員賞には、独自通気経路によりドアそのものが通気機能を持つ「VantAir」(ヴァンエア) (チャネルオリジナル(株))が選ばれた。

▽ライン工業―高さ4mスパン6mの「囲柱」実大躯体を展示。県外で使用される岐阜県産材へも助成される岐阜県独自の条例を活用し、関東圏で商業施設への採用が決まって現在建設が進んでいるという。

▽フルタニランバー―チリ産広葉樹材レンガの扱いを開始。ブラックチェリーの代替としても使用されており、桜色で綺麗な優しい木目は注目を集めた。また、カーボンファイバーと突板による3層構造の吊り戸を建具屋、繊維会社と共同開発・製造し、参考出品した。厚さ17mmでも反ることはなく、重量も15kg



▲大断面ヒノキ無垢製材品の美しさで紀州材の品質をPR (山長商店)

と軽くできることが特長である。

▽音響熟成木材(カイケンコーポレーション)―クラシック音楽を聞かせながら常温で天然乾燥させた熟成材。木材に含まれる油分が熟成されて本来持っている力が損なわれない。防カビ防菌、健康住宅に最適だという。

▽山長商店―細やかな美しい木目の大断面ヒノキ無垢材を出品。山から製材加工まで一連の高品質材を生み出す紀州材をアピールした。

☆ ☆

第8回アジア・フアニシング・フェア(一社)アジア家具フォーラム主催)は、アジアの家具・インテリアが一堂に会する総合見本市であり、今回は出展者数137社/団体。内、海外出展が88社で、海外勢の出展も展示会規模も共に過去最大となった。

同展は今回7テーマ12カテゴリーに出展エリアを分類し、見

日本輸入木工機械協会（JWTA） 第58期通常総会を奈良で開催

日本輸入木工機械協会（事務局＝㈱ウッドミック内、以降JWTA）は去る12月9日（土）に、第58期通常総会を奈良さくらの郷（奈良県桜井市）で開催した。

定刻、総会は長井会長の挨拶と共に、昨年新たに社長に就任したライツ㈱の佐藤真一氏より挨拶がなされた後、長井会長を議長に第58期経過報告及び第58期収支報告（監査報告）について審議され拍手をもって承認された。



▲日本輸入木工機械協会（JWTA）第58期通常総会 in 奈良

特に今回の総会では、3期6年間に亘ってJWTAを牽引



▲役員改選に伴う選挙で選ばれたJWTA新役員。右から牛場正人会長、鈴木直副会長と、長井浩司前会長



▲総会前日にフソー㈱本社ショールームを視察

し、積極的に他協会との交流を深めてきた㈱ホルツテクニカナゴヤの長井浩司社長が、任期満了に伴い会長職を辞し、新執行部役員の出選が選考により行なわれた。その結果、㈱鈴工の牛場正人社長が新会長に抜擢され、副会長にホマツゲジャパン㈱の鈴木直専務が選出された。

新会長に就任した牛場正人氏は、「長井会長の下で副会長を永く務めさせて頂いたが、これからは会長として業界の為に働きかけるとはどういうことなのか、皆さんのサポートをお願いしながら学んでいきたい」と、挨拶の中でJWTA会員の結束と、監事役員として長井浩司前会長、並びにサンモア㈱・トップスベック㈱の森崎茂社長による就任を要請し、承認された。

引き続き、日本木工機械展2023参加による成果等その他の報告に移った。3日間開催期間が短縮されたことにより来場者の対応に追われる一面があったことなどの報告を踏まえ、次回の展示会に向けて工業会へ要望する事項を纏めた。

その中で、JWTA主催で開催したオンライン勉強会「第1回JWTAオンラインBIMシンポジウム」についての結果報告もなされた。参加者は150人近く、ゼネコンやハウスメーカーを中心とした建設メーカーの視聴者が多く、BIMの注目度が高いことが改めて伺えた。BIMの普及が進めば、構造設計の中にサッシや接着剤等のデータまで入力できるようにするため、同協会メンバーの材料

メーカーまで関わってくる話題として、今度も定期的な勉強会開催が検討された。

その他の情報交換では、ネスティングについての意見交換が活発に行なわれた。近年の海外展示会では、ネスティングをテーマとした出展企業が多く、海外ユーザーでも積極的に取り入れられている傾向が見られている。材料を無駄なく効率的にカットできる手法として、今後は日本でも需要増加の可能性が考えられるため、国内でネスティングを取り入れた工場視察の案が出された。

ちなみに総会前日の8日（金）は会員メンバーであるフソー㈱本社ショールームの見学を行ない、奈良の代表的な古墳を巡りながら会員間の交流が深められた。

ウッドコレクシオン2024開催！ ネットワーク構築の場としての一面も見られる ようになってきた

今年も東京ビックサイト（江東区有明）で、東京都が主催するウッドコレクション2024が、1月11日（木）・12日（金）に開催された。ビックサイトの西1・2ホールで行なわれた展示商談会には、39都道府県から出展者が集い、2日間で5293名の

来場者が訪れた。

「その気づきが、未来を創る」をテーマに、主催者企画展示ブースでは、3つのエリアに分け、国内森林の課題や重要性・国産材がもつソリューション・暮らしの一部になる木材製品などを紹介した。特に、国産材

を活用した木材製品の展示ゾーンでは、暮らしのあらゆる場面で木を取り入れることが出来る、という気づきを与えられたように感じた。

そして、展示会全体で感じられたのは、出展者同士の繋がりを求めて参加する人たちが増えてきたことである。長野県松本市地域振興局ブース内で初出したアートフェスkikkakeもそうだ。

kikkakeは、松本市内で活動するアーティスト集団で構成さ



▲高知県・M-CRAFTはテーブルホッケーにもなるテーブルを展示。スライド式に天板を開けば、下からエアーが出る本格的なエアーホッケーに変身。小物類は全てホッケー部分に収納できる



▲ウッドコレクション2024 主催者企画展示 1

れており、松本産アカマツなど地域材を活用したアート作品を展示した。出展に至った経緯には、他出展者とのネットワーク

を構築することで、地域林業の活性化に繋がったという思いが、あってのものである。ウッドワンダーランド開催のきっかけも、BtoBを促進させるためのものであるが、徐々に事業者同士の商談ではなく、新しい事業開拓に向けた協業を求める形へと変わってきているのかもしれない。



▲石川県・フルタニランバー(株)の能登ヒバ楽器



▲広島県・中国木材(株)のハイブリット・ビーム



▲愛知県・西垣林業は、「地域の杉を活用した空間提案学生コンテスト2022」で最優秀賞を受賞した『重さで繋がるベンチ』と、木製パーティションJoinを展示



▲長野県・(株)ウッドテック秋富の木製家具・建具

セミナーでは、「木造建築と国産材活用の同時成長」ーウッドステーション(株)塩地博文会長、「木を活かしてウェルビーイングな暮らしと社会をー木の効果・効能研究に学ぶ」ー慶応義塾大学理工学部 伊香賀俊治教授・日本福祉大学健康科学部 福祉工学科建築バリアフリー専修 坂口大史准教授・(株)ユニバーサルデザイン総合研究所 高橋義則社長、の2講演を聞くこと



▲鹿児島県・MEC Industry(株)は、簡単に設置・取り外しできるCLT床材を新発表

ができた。塩地氏の講演では、ウッドステーションで試みている立木を在庫とするジャストインタイムの木材大型パネルの製造システムについて触れられた。立木在庫は、受注したパネルから必要な立木量までを逆算してデータ化し、必要数の立木以外を森で在庫するという手法だ。まだ課題は多くも、デジタル化を先導する事例として関心を集めた。木の効果・効能研究のディスプレイでは、木を暮らしの空間に取り入れた際の人への効果について詳しく解説された。そして、木質の良さを発信する



▲大阪府・山の出前一丁では、木で木を再生させるAIR 飽を実演

ための木質化計画を推進していくこと、より、木質化の良さをデータとして集積することで見える化していくことが、木材利用の促進に繋がると発信された。



▲長野県・(株)崎屋木工製作所の木のワインセラ



▲(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所では早生樹の活用に向けたプロジェクトが紹介された



▲千葉県・(株)山二建具の間伐材を活用した木製ポール